

研究主題 共につくる特別支援教育 ～コーディネーターの仕事術～

I 団体の概要

本研究会は平成16年に発足し、初めは「特別支援教育って何だろう？」と困惑からのスタートだったが、そこからコツコツ実践を積み重ねてきた。



特別支援教育に携わる様々な学校関係の方が集まって、現場での実感を分かち合い、子供の目線に立ちながら、指導と連携の具体策を話し合い、明日の実践への活力を生む。そんな研究会を目指している。

II 今年度の研究

多くの先生たちとの関わり合い、支え合いの中で進められていく特別支援教育。その中心となるコーディネーターに焦点を当て、4回のセミナー（研修会）を実施した。

毎回テーマを決め、運営委員による実践報告や参加者とのグループ協議を通して、児童・生徒等への具体的な指導・支援の手だてや連携の方法を探った。

5月 春のセミナー	仕事の見通し、校内委員会など
8月 夏の日セミナー	保護者との連携、ケース会議など
11月 秋のセミナー	発達検査、学校生活支援シートなど
1月 冬のセミナー	1年間のまとめ、引継ぎ、新年度準備

III セミナーの実施報告

(1) 春のセミナー

【仕事の見通し】

- ・コーディネーターの役割とは？
- ① 校内の関係者や関係機関との連絡調整
- ② 保護者に対する相談窓口
- ③ 担任への支援
- ④ 巡回相談や専門家チームとの連携
- ⑤ 校内委員会での推進役
- ・まずは、自分の中でチームを作る。
- ・そして、関係機関の一覧や手続き集を作る。

【校内委員会】

- ・校内委員会とは、特別支援教育を組織的に取り組むための中核となる会議
- ・スムーズな運営のためのポイントは？
- ① 対象となる子供の一覧表作り、確認
- ② 次第作り、打ち合わせ
- ③ 終了後の校内での情報共有、支援の明確化

【校内での連携】

- ・指導、支援の中心は担任である。担任の負担感に寄り添う言葉掛けをきっかけにするとよい。
- ・コーディネーターが率先して援助要求を行う。

(2) 夏の一斉セミナー

〔講義・演習〕

演題 「ホワイトボード・ミーティング®がたがた特別支援教育」

講師 田中雅子先生

(北海道教育大学釧路校准教授・ホワイトボード・ミーティング®認定講師)

【保護者との連携】

- ・子供本人の思いを確認する。
- ・「協力します」「味方です」というスタンスで、まずは保護者の話を丁寧に聞く。
- ・巡回指導教員、担任など、それぞれの立場からの情報をバランスよく集め、一人で抱えず、チームとして協力していく。

【ケース会議】

- ・「話せてよかった」と思えるように、情報共有で終わらずゴールを明確にする。
- ・普段から、風通しの良い人間関係を心掛ける。
- ・記録を可視化する。

(3) 秋のセミナー

【発達検査】

- ・代表的な検査「WISC-IV」「WISC-V」
- ・4つ（Vは5つ）の指標得点と得点を総合した全検査IQが分かる。これらを基に具体的な支援を考えていく。

【学校生活支援シート・個別指導計画】

- ・2つの違いが分かりますか？

「学校生活支援シート」は、本人や保護者の希望を踏まえ、教育、保健・医療、福祉等が連携して、児童・生徒を支援していく長期計画。

「個別指導計画」は、学校の指導・支援の中でも学習に関する支援を具体化した長期及び短期の指導計画。学校生活支援シートを踏まえて作成する。

IV 参加者の声

- 立場や環境が異なる人同士が集まっても、それぞれの話をじっくり聞いて、強みやできることを見付けていく中で、共に学び合うことができるということに喜びを感じました。
- 自分の思いを可視化、言語化することの大切さを改めて感じました。最後まで聞き続けることが大事だとも感じました。
- 分かっているようで分かっていた発達検査のこと、学校生活支援シートや個別指導計画のことなど、整理して理解することができました。お話がとても分かりやすく、参考になりました。
- 研修会でたくさんの迷いや悩みが解消されました。多くの先生方と意見交流をできたことで、安心感が得られました。
- グループ協議では、多くの先生方と意見交流できたことが、多くの学びにつながりました。学んだことを、これからの指導に活かしていきます。今後も、ぜひ研修会に参加したいです。

＜令和5年度連絡先＞

団体名		東京コーディネーター研究会
代表者	所属	町田市立鶴川第一小学校
	職氏名	校長 小林 繁
	連絡先	042-735-1234
事務局	所属	豊島区立池袋第一小学校
	職氏名	主幹教諭 吉成 千夏
	連絡先	03-3916-3435
団体ホームページ	URL	二次元コード
		https://tckenkyu.com